

補助動詞「～てしまう」の考察 — 談話の構造に注目して —

中山 富子

本稿では、会話のコーパスから抽出した用例を概観し、補助動詞「～てしまう」の発話が含まれる談話の構造の特徴を分類した。その結果、「～てしまう」を含む談話は、「因果関係」「事情説明—結論」「順序説明」等に類型化できた。その後、『名大会話コーパス』から抽出した用例を分類、数値化し、「因果関係」の構造の中でも「原因・理由—結果・結論」の構造を持つ談話が最も多い可能性があること等を指摘した。

【キーワード】 補助動詞「～てしまう」、会話コーパス、談話の構造、因果関係

1. はじめに

補助動詞「～てしまう」について、これまでに数多くの研究がなされてきている。しかしながら、実証するに足る量の実例をベースに文脈の中で考察する研究は、管見では未だ見当たらない。そこで、本稿においては会話の実態を探り、文脈の中から「～てしまう」について観察したく、会話コーパス『女性のことば（職場編）』『男性のことば（職場編）』『名大会話コーパス』を用い、考察を行うことにする。

筆者は、「～てしまう」を用いて表現する場合、文脈が重要になるのではないかと考えている。そのように考えるに至った一つの研究に丸谷他（1998）がある。丸谷他（1998）では、「太陽はなぜ西の方に沈んでしまうのか」という留学生による誤用例を挙げ、「沈むのか」と訂正する際、この誤りは「～てしまう」が、アスペクト的側面と「心的側面」の両面を兼ね備えていることに発していると指摘している。しかしこの発話の前文脈まで考え、「私の住む地域では、太陽が西に沈む時、遠い西の山の方に落ちていく。東の地平線にきれいに沈む夕日が見たいのだ。なぜ太陽は西の方に沈んでしまうのだろうか。」とすれば、「沈んでしまうのか」としても問題が生じない。その文単体では直感的に、あるいは既存の知識に照らし合わせてみると、おかしく思う、しかしいろいろな文脈を当てていくと自然な文になるのはなぜか。このような疑問に、談話の構造を明らかにしていくことで答えられるのではないかと考える。本研究では、上記のコーパスの中の会話を基盤にして、文脈の考察を進めていく。なお、本稿は、その第一段階の研究である。今後、研究を深めていくためのパイロットスタディに位置付けている。

以下の節において、先行研究と本稿の位置づけについて考え、第3節では本稿の目的、第4節において調査の方法を具体的に説明する。第5節では、具体例に注目しての分析と考察、第6節はまとめである。

¹ 補助動詞「～てしまう」は、以下「～てしまう」と記す。

2. 先行研究と本稿の位置づけ

補助動詞「～てしまう」について、金田一（1955）以降、語用論的意味及びアスペクトの意味の二つの側面から、様々な議論がなされてきている。中野（2003）、金高（2009）では終結²を表すアスペクト的意味が「～てしまう」の基本義（文脈に左右されない意味）であり、遺憾、驚き、喜びといった「感情評価的意味」は、文脈の影響を受ける「語用論的意味」であると説明している。中野（2003）は、アスペクト的意味に関して、さらに考察を発展させている。例えば「困ってしまった」は「困らない状態」の「終了」であり、かつ「困った状態」の「始まり」であり、またその「持続」を表す場合もあると述べている。これに対して中山（2014）では、あくまで「～てしまう」は「終結」の意味を表し、「始まり」とその「持続」や「継続」という意味は文脈から表出されるものであると主張した。

このように見てくると、基本義であるアスペクト的意味が「～てしまう」の中心的な意味かと思われるのであるが、そこには常に「感情評価的意味」が付いて回り、それが基本義であるとの議論もされてきている³。この「感情評価的意味」が、付いて回る…という可能性がある…ことは、中山（2013）でも明らかになった。中山（2013）で、『現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言（BCCWJ）』⁴の「する」「なる」「食べる」「落ちる」の4つの動詞についてであるが、それらが「～てしまう」に前接した場合を調査したところ、アスペクト的意味（終結）だけで使われているもの⁵は、意志動詞の「する」「食べる」で確認された。全体の3%ほどであり、それ以外は、「感情評価的意味」が付加されていた。

このような点を加味すると、アスペクト的意味は基本義であるとは言えるが、実際に使われる際には、「感情評価的意味」も重要な位置を占めていると考えられる。「感情評価的意味」が表出される背景については、倉持（2000）、金高（2009）により検討されている。金高（2009）は、倉持（2000）をベースにして、「感情評価的意味」は、「～てしまう」が表す実現された（実現される）新しい事態と、それ以前に話者が予想・期待・意図していた事態とが相反した場合、その差異を認識することにより生じると説明している。その例として以下を挙げている。

（1）昨日ね、表参道を歩いていたら、前から好きだった芸能人見ちゃった！（金高2009：83）

（1）において、話者は好きだった芸能人に会えるとは予想していなかった。予想（会えない）と、現実起こった事態（会えた）との間にギャップが生まれ、それを認識することで、（1）の事態においては喜びや自慢といった「感情評価的意味」が表出されると金高は述べている。

中山（2011、2012）では、さらに相手を気遣ったり、配慮したりする際にも「～てしまう」は用いられ、話者および聞き手のフェイス・リスクを軽減する機能も持つとし、その

² 研究者により、「完了」「終了」という用語で説明する場合がある。本稿では「終結」という言葉に統一する。

³ 藤井（1992）や鈴木（1998）を参照。

⁴ 以下 BCCWJ と記す。

⁵ 例えば、「懐石は昔から残さず食べてしまうのがきまりである。…（後略）」（BCCWJ の PB27_00129 出版・書籍より引用）というような用例が挙げられる。

例を紹介した。そしてヘッジとして用いられる「なんちゃって」のような例についても紹介したが、他の先行研究と同様に、実際に使用された、より多くの発話をも含めた考察には至っていない。

倉持（2000：299）は、「シマウ」と「感情評価的意味」の関係について論じた上で、残された課題という最終節の中で、「『シマウ』は『チャウ』等の形も含めて日常の行動の中で極めて頻用度の高い表現形式である。（中略）・・・最終的には実証の裏付けがなされなければ、仮説が仮説のまま終わってしまうことになる。」と指摘している。筆者は、従来、理論として指摘されてきたことの実証に止まらず、新たな発見も期待できると考え、実際の使われ方について考察を広げていくことに意義があると考えた。

倉持（2000）の指摘にもあるように、「～てしまう」は日常の行動の中で多く用いられるとされているが、上述の通り、実証的研究は未だなされていない。そこで、本稿での実証的研究の予備調査としてBCCWJを利用して、ジャンル別の頻用度を算出した⁶。以下（表1）がその結果である。ジャンル別の頻出度を見ると、ブログ、知恵袋、ベストセラーといった書き言葉ではあるが、話し言葉的な表現⁷がより多く見られるジャンルで、出現頻度が多くなっている。「～てしまう」は、話し言葉的な文脈の中で多く用いられると考えられ、話し言葉的表現のベースとなる会話の考察も重要であると考えられるに至る。

（表1） BCCWJにおけるジャンル別「～てしまう」の出現頻度

ジャンル	コーパスの規模（語数）	「～てしまう」の用例数	用例数 / ジャンル別語数
出版・新聞	1,370,233	359	0.0262%
出版・雑誌	4,444,492	3,560	0.0801%
出版・書籍	28,552,283	22,390	0.0784%
図書館・書籍	30,377,866	27,662	0.0911%
白書	4,882,812	91	0.0019%
ベストセラー	3,742,261	4,159	0.1112%
知恵袋	10,256,877	14,827	0.1446%
ブログ	10,194,143	11,301	0.11109%
法律	1,079,146	0	0%
国会会議録	5,102,469	1,515	0.0296%
広報誌	3,755,161	423	0.0113%
教科書	928,448	212	0.0228%
韻文	225,273	166	0.0737%
全体	104,911,464	86,666	0.0083%

⁶ 「キー: 品詞 LIKE "動詞%" AND 後方共起: (品詞 LIKE "助詞-接続助詞%" AND 語彙素読み = "テ") ON 1 WORDS FROM キー AND 後方共起: (品詞 LIKE "動詞-非自立可能%" AND 語彙素読み = "シマウ") ON 2 WORDS FROM キー」の条件式で、ジャンルごとに検索した。

⁷ 書き言葉の中の話し言葉的表現について議論している野田（2013）、前川（2008）を参照。

このような予備調査をもとに、本稿においては会話コーパスから用例を採取し、まず、「～てしまう」を含む発話の連続よりなる談話の構造について考察していきたい。橋内(1999)は、談話の研究は総じてコミュニケーションの構造と機能の双方に目を配ると述べている。次節では、本稿の目的と、談話構造の考察に取り組む理由について述べる。

3. 本稿の目的

本稿では、会話コーパスから「～てしまう」を用いて表された発話を採取して、観察する。その目的は、「～てしまう」を含む発話と、それを取り囲む発話の連続を観察し、「～てしまう」が現れる談話の構造を探ることにある。それは、「～てしまう」が使われる環境にはどのようなものがあるかという考察であり、「～てしまう」そのものについての考察は、深くは行わない。本稿は、「～てしまう」そのものについての考察を将来的により深めていくための研究である。

会話コーパスを調査対象とする理由は、「～てしまう」が、話し言葉的な文脈の中で使われることが多いことから、そのもとになる会話を分析することは不可欠であると考えたことによる。

次に、談話中での「～てしまう」の考察として、第一に構造に焦点を当てた理由である。それは、「～てしまう」の持つ特徴による。前節で見てきたように「～てしまう」には、基本義としての「終結」というアスペクト的意味と、文脈によってその意味が決まる「感情評価的意味」がある。「感情評価的意味」が表出されるのは、話者が予測、期待、意図した事態と、発話時点の実現した事態とにギャップが起こったときであるということが明らかにされてきている。このような「～てしまう」の特徴が、会話の中にどのように反映されているのかを実証的に考察するには、発話の連なりである談話の構造を、まず明らかにしていかなければならないと筆者は考えるからである。

4. 調査の方法

4.1. 調査対象とするコーパス

用例採取のもととするコーパスは、『女性のことば(職場編)』、『男性のことば(職場編)』、および『名大会話コーパス』⁸である。各コーパスは、『女性』9時間、『男性』12時間、『名大』100時間が全収録時間であり、それを文字化している。『名大』は、今回の分析では、収集場所を東京都に絞り、年齢や人間関係等が、できるだけ幅広く収集できるようにした⁹。収集した『名大』の6つのデータの総収録時間は、4時間である。

各コーパスから抽出した「～てしまう」「～ちゃう」の用例数は、以下の通りである。

⁸ 以後、『女性のことば(職場編)』は『女性』、『男性のことば(職場編)』は『男性』、『名大会話コーパス』は『名大』と記す。

⁹ 調査対象は、データ番号の data008.euc、以下番号のみ 034、038、067、068、069 である。参加者の関係は、このデータ順に先輩後輩(50代、60代)、友人(40代)、祖母と孫、友人(20代)、大学院の同級生、大学の同級生である。

(表2) コーパス別の「～てしまう」、「～ちゃう¹⁰」の出現数

	『女性』 [11421]	『男性』 [11099]	『名大』 [5378]
～てしまう	23 (0.20%)	19 (0.17%)	2 (0.04%)
～ちゃう	319 (2.8%)	311 (2.8%)	144 (2.7%)

([] 内は発話の総数、() 内は「出現数/総数」の割合を示す。)

上記(表2)からも明らかなように、会話においては、「～てしまう」に比べ「～ちゃう」が圧倒的に多いと言える。その扱いについては、次の4. 2. で触れる。

4.2. 調査対象とする語形

前節の「(表2) コーパス別の『～てしまう』と『～ちゃう』の出現数」が示すように、両者の出現数の割合は、「～てしまう」は、『女性』0.2%『男性』0.17%『名大』0.04%であるのに対し、「～ちゃう」は『女性』2.8%『男性』2.8%『名大』2.7%である。「～ちゃう」は、「～てしまう」の10倍以上と用例が豊富であることから、「～ちゃう」も考察の対象とする用例に含めたい。

丁寧度の違いが、「～てしまう」と「～ちゃう」のどちらを選ぶかの基準の一つになることもあり、その違いが構造に影響を与えることもありそうである。しかしながら、本研究の対象コーパスより抽出した用例においては、以下(2)のように同一人物が、同じ場面の発話で、「～ちゃう」「～てしまう」を区別せずに用いている。

(2)

3682 08I: リボンを、他、布なんかをさー、★¹¹こう挟んじやって、こうやって…
: (中略)

3692 08I: →リボンを←この中で★とめてしまえ¹²ば、うすーく(あーあーあーInf(女))
外側だけさー、(そうね Inf(女)) やって。

3693 08A: →、入れちゃえば。←
: (中略)

3695 08I: あんまり薄いとはがれちゃうから。 『女性』

両者の区別を意識し、発話途中で「～ちゃう」を「～てしまう」に言い換えた表現も、1例のみが抽出された。しかし、この場合も談話の構造を見ている限り、考察に影響を与えないことから、「～てしまう」と「～ちゃう」の両者を区別せずに考察の対象にする¹³。なお、「～ちまう」も談話構造の考察には影響を与えるものではなく、「～ちゃう」と同様に、考察の対象にした。「～ちまう」は、『女性』は2例、『男性』は1例、『名大』から採

¹⁰ 「じゃう」も含む。

¹¹ 『女性』によれば、★は、次の話者の発話が始まった時点を表し、「→」は前の話者に重なった始まり、「←」は終わりを表している。

¹² 用例中のアンダーラインは全て筆者による。

¹³ 談話構造には関わらないが、親疎関係の調整など心理的な要因が背景に存在する可能性がある。このような点については今後の研究で明らかにしていきたい。

取したデータは0例であった。

4.3. 分析の視点と手順

分析にあたっては、その視点を定めようと、当初、談話構造について話者交替、隣接ペア等の観点から考察を試みたが、「～てしまう」を含む談話から共通する関係を取り上げ、一般化するということはできなかった。それは、以下(3)の例から明らかになるように、「～てしまう¹⁴」は、あくまで文の中の一つの形式であって、発話と発話が隣接することにより現れる特徴は、「～てしまう」以外の機能の影響が大きいからである。

- (3) 1056 03A : 酔っちゃうの↑ [質問]
1057 03H : うん、あの、電車とか乗っちゃっても… (後略) [応答] 『女性』

上記(3)の例は、[質問]と[応答]の隣接ペアであると考えられるが、それは「～てしまう」と発話の関係について何等説明するものではない。このような会話の重なりや話者交替の局所的な仕組みでは、「終結」というアスペクトの意味や、遺憾、喜び等の「感情評価的意味」を持つ「～てしまう」が現れる談話構造を明らかにしていくことはできないということである。そこで、視点を変えて、発話と発話が談話のユニットの中でどのように結びついているのかという観点で構造を観察してみることにした。そのために、本稿では、「～てしまう」を含む文と関係する内容の発話の連なりを一つのユニットとして取り出し、考察の対象にする。例えば、以下(4)の1428 04Dの発話「え、おりちゃう」の文に関連する発話の連なりを取り出すのであれば、それは、1428の「おりちゃう」について説明する1423-1495である。

- (4) [背景：シンポジウムにおいて、司会者と説明者のうちの一人は、コーヒーブレークの後、ステージから降りてもいいか話し合っている場面である。04A 女 55歳、04D 男 61歳、両者とも大学教員である。]

1423 04D : でその一、それでま、一人抜けてちょっとさみしいとゆうようなこともあるので、[名字]先生にはそのまま残っていただいて、(ええ Inf(女)) ええ一、その前半の部分の全体の、感想みたいなものをはじめに述べていただくと、★いいんではないか。<言いさし>

: (中略)

1426 04C : うん、一人いらっしゃる…

1427 04A : こっからかわるからもうわたしここでおりますよ。

1428 04D : え、おりちゃう。

1429 04A : うん。

: (中略)

1495 04D : まああの一、つまりそうゆうこう、なんてんでしょうね、あの一、その討

¹⁴ 「～てしまう」と「～ちゃう」の両者について言及している場合は、「～てしまう」と記す。

論に入ってから寂しくなるといけないという考慮もあったので。

『女性』

上記のような談話の考察にあたっては、どの視点から分析するかも明らかにしなければならない。上記(4)の場合、分析の焦点を04Dに置くか、04Aにするかで、談話の構造の説明の仕方が異なってくるからである。04Aであれば、「ステージに、一人いる(二人はいらない)。内容も変わり、切りがいい。[理由]/Aはステージから降りる。[結論]と、「理由・結論」の関係となる。一方、04Dに置けば、「一人抜けると、ステージが寂しくなる。Aにはステージから降りないで、そのまま残ってもらいたい。[譲歩]/Aは降りる。[結果]」である。本研究においてはこのような混乱を避けるため、「～てしまう」を含む発話を発した主体に焦点を当て、分析する。よって(4)は、「譲歩・結果」の関係であるとする。

次に「原因・理由—結果・結論」のような関係のブロック分けであるが、本稿では、発話の連続、すなわち発話と発話の結びつきの背後に存在する構造を明らかにしようとしている。そのため発話の連なりをブロック(考察対象の単位)と考えようとしている。従って、一つの発話(一文)の中に「一度作業を休むと、戻るのがつらい」というように「因・果」を表す表現が存在することがあるが、本稿では一発話のみを考察対象の単位とはしていない。

なお、談話として抽出した会話の資料の番号等は、コーパスの中での表記そのままの形で記載する。読みにくい場合もあるが、誤植ではない。また、本稿では、発話、談話、会話という言葉を用いて記述する。その際、発話とは一つのレコード(『女性』『男性』では行番号)を指している。談話は一つのユニットとして発話のつながりを構造的に捉えている時に、その発話の連なりであるユニット全体を指して呼ぶ。会話という言葉は、特に発話と発話について説明する際に、構造を意識せずに取り上げる場合に用いる。

最後に、分析の手順である。第一に、発話の連続を談話に区切りながら、それぞれの構造を観察し、その特徴を記録した。次にその記録を概観し、特徴をまとめ、類型化した。最後に『名大』の中でそれぞれの特徴が現れた談話の分布傾向を知るため、用例を再度観察し、その数をカウントした。

分析の前半で談話の構造の特徴を類型化していったが、それは、以下のようにまとめられる。

- ① 発話のやり取りを通して、ある出来事についての以下のような因果関係を説明するもの¹⁵。

「原因・理由」と「結果・結論」/「条件」と「結果」/「譲歩」と「結果」

- ② 発話のやり取りによって事態や事情を説明し、最後に結論を出す(まとめる)もの。
- ③ やり取りの中で対処法等の行動を順次説明し、最後に取るべき行動(まとめ・閉め)

¹⁵ レンケマ(1997)の分類を参考にしている。「『原因』は意志と関係のない結果を示す。『理由』は意志的な側面が存在することを示す。」とする「同1997」に従うが、特に区別する必要がなければ、「原因・理由」と、一つにまとめて記述する。「譲歩」は、前田(2009)の捉え方を借り、「ても」で代表される「逆条件」と「のに」で代表される「逆原因」という関係を指す。

を「～てしまう」を用い、述べる形をとるもの。

④ 上記①～③のような大きなまとまりが見出せないもの。

次節では、上記①～④の具体例を示し、その構造を確認しながら、詳しく分析し、考察していく。その際、各分析の終わりにまとめの意味で談話の構造を図示した。その中に「～てしまう」「～ちゃう」を記述した。それらが「原因・理由」「結果・結論」等のいずれを表す文脈で用いられているかを明示するためである。なお、発話のやり取りは複数の人に向けての独話の場合もある。

5. 分析と考察：「～てしまう」が含まれる談話の具体例を基にして

5.1. 因果関係

以下に、因果関係の構造を持つ談話の例を挙げる。

5.1.1. 「原因・理由—結果・結論」の構造を持つ談話

「原因・理由—結果・結論」の構造を持つ談話について、2つの談話を取り上げる。両者は、連続する談話から抽出されたものである。

(5) [背景：02A が 2 家族と友達の 9 人でハワイ旅行へ行くことになった経緯について語っている。02A、02C の両者とも 27 歳、女、会社員である。]

347 02A：… (省略) でなんか、ハワイ行くんです、みたいな話をしたら一、その一、自転車屋さんの、お客さんの人なのね (うん (他者 (女))、で、おれ、で一、ロスにはもうなんじゅっ回って行ってる人なんだけど。(348 02C うん。)

349 02A:ハワイのなんか行ったことないとかってゆって一、(んーんーんー 他者 (女)) 行こうかなとかってゆって一。

350 02C：ふーん。 <笑い>

351 02A：それでなんか、家族もいいかな、みたいになっちゃって一、そしたらなんかその人の友達まで、(あー 他者 (女)) おれも行くーみたいなかんじで。

352 02C：ふーん。

353 02A:→いきなり←9 人の大所帯に★なっちゃってさ。 『女性』

上記 (5) の談話は、9 人の大所帯で行ったハワイ旅行についての話である。談話として大きく捉えると、347–352 の発話全体では、経緯 (=原因) が話題になっている。353 は、9 人の大所帯になったという「結果」である。347–353 の談話は「原因—結果」の構造を持つと言え、以下のように図示できる。

(5) の談話の構造

原因 (結果に至る経緯説明) (347–352)

02A 家族と自転車屋のお客でハワイに行く。
お客の家族とその友達も行く。 (ちゃう)

結果 (353)

9 人の大所帯になる。
(ちゃう)

次に上記の談話に続く発話の連続であるが、別の1つの談話として考察する。

(6) [背景：空港からホテルまでの移動手段についての会話である。]

354 02C：→ふーん。←

355 02C：団体だねー。

356 02A：ちょっと、いや、ツアーだよ、★結局

357 02C：→あ、じゃあ←、空港からホテルっていうのはなんで、い###¹⁶。

358 02A：ん、空港からもうレンタカー借りて。

359 02C：あ、そか###。

360 02C：2台↑

361 02A：→おっきい←ワゴン。

362 02A：んーワゴンの、あの一。

363 02C：1台↑

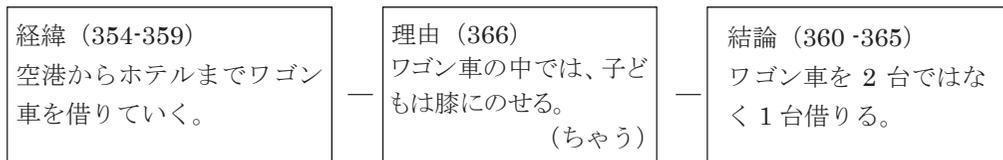
364 02A：んー、1台。

365 02C：9人1台。

366 02A：ん、まあ子どもこう膝のつけちゃうからね。 『女性』

(6) の談話を見ると、354-359 では「(9 人の大所帯は) 団体だ、空港からホテルまでレンタカーを借りる。(経緯)」、360-365 では「ワゴン車は 2 台ではなく 1 台借りる。(結論)」という内容で結論に至るまでの「経緯」と「結論」が語られている。最後の発話 366 は、「子どもは膝にのせる(理由) から、(1 台で問題ない)」と「理由」を示している。「理由—結論」の前に、その状況背景に関する「経緯説明 (354-359)」が付加されていると言える。談話構造は、以下のように図示できる。

(6) の談話の構造



以上の談話は、2 人のやり取りからなる発話の連続であった。次に大勢の聞き手に向かってアナウンスする一方向の談話の例である。

5.1.2. 「原因・理由—結果・結論」の構造を持つ談話—独話の場合

(7) のように一人の発話の連続の中にも上述のような特徴が観察される。

(7) [背景：大学の謝恩会委員(学生)に対し、07A は実施可能な日程を挙げ、最終的にそ

¹⁶ 『女性』によれば「#」は聞き取り不明の箇所、「↑」は上昇イントネーションを示すとのことである。

の中から選択するよう提案している。07A は大学助手、女、43 歳である。]

3266 07A：それからあの一、と一、日程なんですけれども去年までは卒業式のあと、だったんです。

3267 07A：それはあの一、と、初国との関係で、そゆうふう決めてたんですけれども、今年初国が 17 ちとゆうふうに決めちゃったんですね。

3268 07A：で一、今まであと一 日にち的に見ると、18 日が、続いちゃうんですけれども日程的には空いてるんです。

3269 07A：今までいつも 18 日が初国取ってたので 19 日はやっぱり避けたほうがいい、あの卒業式の前日なんで避けるとゆうことで、で一、そうすると卒業式のあとになってしまうんですけど、卒業式の前の方がいいんじゃないかとゆう意見もちらほら聞いてたので一、それは、あとでもそれはかまいません。

3270 07A：あなたたちのほうで決めていただいて、皆さんの委員のほうで決めていただいていたんですけども、あの一、つと、いちよう日程的には 18 日が空いてるので、18 日と、あと一もっと前ってゆうとまた間（ま）があいちゃうので、18 日、あと一卒業式あととゆうことで、あの一つと、場所を取ってもらう、とゆうことと、日程を決めてもらうとゆうこと、急いでお願いしたいんです。 『女性』

3270 07A はその発話の中で、「謝恩会は、18 日か卒業式の後の日を選んで日程を決めるように」と提案している。これは、談話全体の流れである「理由—結論」の結論に当たる。3266—3270 の発話にその「理由」が述べられている。「17 日は初国が日程として選んでいること、19 日は卒業式の前なので辞めたほうがいい（20 日が卒業式である）」という内容がその理由である。3270 の発話には「理由」と「結論」の重なりが見られる。談話の構造は、以下のようにまとめられる。

(7) の談話の構造

理由 (3266—3270)

17 日に初国が謝恩会を開催する。
18 日は、空いている。
18 日より前にすると、間が空く。
19 日は卒業式の前日なので、謝恩会は避けたほうがいい。 (ちゃう・てしまう)

結論 (3270)

謝恩会は、18 日か卒業式の後に開催するのがいい。
(ちゃう)

以上「原因・理由—結果・結論」の構造を持つ談話を考察した。その中で、明らかになってきたことがある。(5)～(7)において、「～てしまう」を含む文がどこに現れるかを見ると、「原因・理由」を表す発話の中にも「結果・結論」を表す発話の中にも自由に表れていることである。また、(6)の例から、「原因・理由—結果・結論」という構造は、会話の中で発話が「原因・理由—結果・結論」という順に規則的に並んでいるのではなく、内容全体を整理することで見えてくる構造であること、「理由—結論」の他に経緯説明も付加される場合があることが見えてきた。最後に全ての談話を概観する中での感触

であるが、上記のような「原因・理由—結果・結論」の関係で発話が連なる談話が、他の構造に比べ最も多いのではないかと思われた。

引き続き、次項では「因果関係」を表す「条件・譲歩—結果」の構造を持つ談話について考察する。

5.1.3. 「条件・譲歩—結果」の構造を持つ談話

まず、以下(8)「条件—結果」の構造を持つ談話について見てみたい。(8)は「条件—結果」を表しているとも取れるが、見方によっては前述のような「原因・理由—結果・結論」とも捉えることができる。

(8) [背景：椿の葉の裏にチャドクガという毛虫が発生することがあり、F148が近づいたところその毛が飛んできて、それにかぶれたことを話している。F144、F148は友人同士で、40代女性である。]

F148：うーん。

F148：薬何回かつけて、(うーん) ほんで、で、やっと少し治まったんだけどね。

F148：(ええ、ええ) ほらその一、ミカンのあの一、虫もついてるかどうかっていうのはこういうふうによく近づけて見ないと(ええ、ええ、ええ、ええ) 見えなから、(うん) 見てるから、その、それとおなじような感じでツバキもさあ、近づけて見ちゃったりしたらさ

F144：結局飛ん、飛んできちゃうっていうか。 『名大：data34』

F148が「ミカンを見る時のようにツバキも近づけて見る」と話した後、それを受けて、F144は、「(そうすると、チャドクガの毛が) 飛んできて」と、話を続けている。F148の発話が「条件」で、F144が「結果」という関係である。全体の構造としては「条件—結果」の内容である。なお、レンケマ(1997)の述べるように「条件」は「結果」のために必要な原因や結果であり、「原因—結果」の構造(「近づけて見る」だから「(毛が) 飛んできて」)を持つと捉えることもできる。(8)の構造は以下のように整理できる。

(8)の談話の構造



付記しておきたいことは、F144は、F148を補う形での発話であり、見方によってはF148、F144の連続で一つの発話を成すとも考えられることである。「条件—結果」の関係は、発話(一文)単位では多く存在するが、(8)のように談話の中でそれを見極めるのは難しく、数量的にも少なかった。

次に「譲歩—結果」を持つ談話について考察する。以下(9)のようなものがある。前述の(4)の再掲である。

(9) [背景：シンポジウムにおいて、司会者と説明者のうちの一人はコーヒーブレイクの後、ステージから降りてもいいか話し合っている場面である。04A 女 55 歳、04D 男 61 歳、両者とも大学教員である。]

1423 04D：でその一、それでま、一人抜けてちよとさみしいとゆうようなこともあるので、[名字] 先生にはそのまま残っていただいて、(ええ Inf (女)) ええ一、その前半の部分の全体の、感想みたいなものをはじめに述べていただくと、★いいんではないか。<言いさし>

：(中略)

1426 04C：うん、一人いらっしゃる…。

1427 04A：こっからかわるからもうわたしここでおりますよ。

1428 04D：え、おりちやう。

1429 04A：うん。

1430 04K：[名字]先生##。

1431 04G：[名字]先生が。

1432 04A：@<笑い>

1433 04C：そうですね。

1434 04C：そうしましょうよ。

1435 04A：うん

1436 04G：途中で切り替えて。

1437 04D：いや。<笑い>

：(中略)

1495 04D：まああの一、つまりそうゆうこう、なんてんでしょうね、あの一、その討論に入ってから寂しくなるといけないという考慮もあったので。 『女性』

(9) の 1423、1437、1495 の 04D の発話で D は、「ステージが寂しくなるから、A にステージに残ってほしい」ということを表明している。D の発言に対し、A は、ステージを降りると主張しており、1426-1436 の発話全体では、A がステージから降りることが話題になっている。(9) の D と A 他の発話は、「譲歩—結果」という関係で連なっていると考えられる。以下のようにまとめられる。

(9) の談話の構造

譲歩 (1423、1437、1495)

(A が、降りてしまうと) ステージが寂しくなるので、A にステージに残ってもらいたい。

結果 (1426-1436)

A はステージから降りる。

(ちやう)

以上、条件、譲歩を示す談話の構造について考察した。条件、譲歩の場合も、「条件・譲歩—結果」という流れで、順序正しく整然と発話が進んでいるというわけではないが、それを示す発話が、談話の中で確認できる。それは、「～てしまう」の文が全くの脈絡がなく突然飛び出すのではないことや、談話の中で「原因・理由」「条件・譲歩」「結果」といっ

た内容を示す発話の連続から、状況の詳細が明らかにされながら、発話のやり取りが行われているということを示しているとも考えうる。

次項では、因果関係とは異なる構造を持つ談話について考察する。

5.2. 「事態や事情の説明—結論」という構造を持つ談話

発話のやり取りのあとに最終結論の提示というような談話の例である。

(10) [背景：男子生徒が遅れた提出物を出しに来て、理由を説明している。09A 女教員 37 才、09D 男生徒 17 才である。]

4157 09A：おはようございまーす。

4158 09A：ん。<間 2 秒>

4159 09A：はっきりいいな、あんた、はっきり。

4160 09D：#####。

4161 09A：はっきり、思ってることをゆう。<笑い>

4162 09D：出してなかった。

4163 09A：出してなかったんでー↑

4164 09D：今出しにきた。(4165 09D：ん↑)

4166 09A：それで↑

4167 09D：で、出しにきた。

4168 09A：出しにきたんですかー。

4169 09A：きのうはどうして出せなかったんですか↑

4170 09D：きのうはなんか、家に置いてあってなんか、やり方とかなんかあんまり覚えてなかったから。

4171 09A：ん、何で、やり方を覚えてなかったのと家に置いてきたのは別だよー↑

4172 09D：はあ。

4173 09A：ね↑、そうだよー↑ (4174 09D：はあ。)

4175 09A：うん。

4176 09A：要するに忘れちゃったわけでしょ↑

4177 09D：あ、はい。

『女性』

4157－4177 の談話は、提出物を出しに来た生徒によるその理由の説明と、その内容に関する教員とのやり取りである。事情説明は、09D (生徒) からなされているが、09A (教員) は、4169「昨日はどうして出せなかったんですか」、4171「やり方を覚えていなかったのと家においてきたのは別だ」と言うような応答によりその流れを修正し、話題を展開させている。最後に 4176 で教員が「要するに忘れちゃったんでしょ」と結論を出している。談話の構造は以下のような「事情説明—説明内容のまとめ・結論」という談話構造として整理できる。

(10) の談話の構造

事情説明 (4157-4175)

提出物を家においてきたので昨日出せなかった。やり方もわからなかった。

説明内容のまとめ・結論 (4176)

忘れたことが提出できなかった理由である。(ちやう)

5.3. 「手順の説明—最終段階の行動説明」という構造を持つ談話

5.3. では、手順を説明をし、最後になされる行動をきちんと述べるような談話の構造である。

(11) [背景：上司 03B と部下 03A は、出張旅費の精算の話し合いをしている。現金で渡した分の処理について話している。03A 女 34 歳会社員、03B は男 42 歳会社員である。]

1135 03A：その現金で渡してきたの。

1136 03A：だからどうしよう。

1137 03B：じゃ、どうしよっか。

1138 03A：でいちおうね、[名字]さんが一、手書きで書いてくれた、(うん 他者(男))
領収書は、どれだっけな、ある。

1139 03B：全額の↑

1140 03A：うんう、だから、その渡してきた分の。

1141 03B：ただだよな。

1142 03A：うん。

1143 03A：だけど★、30 万から出てるやつは、渡してきた分だけ★だからー

1144 03B：→そし。←<言いさし>

1145 03B：→そしたら←、これに一枚つけてもらえばいいかな。

1146 03B：★1 枚。

1147 03A：→これを←コピーして。

1148 03B：1 枚。(1149 03A：はあ、はあ、はあ、★はあ。)(1150 03B：→1 枚←)

1151 03A：あー、ほー、で、パチッと止めちゃえばいいの。 『女性』

1135-1151 において「30 万から出ているものは、コピーして、一枚つける」という手順の説明をし、最後に(ホッチキスで)止めてその作業が終結することを確認している。

(11) の談話の話題となっている「現金で清算済みの処理の仕方」について、A が B に伝えながら会話の中で話題を展開させている。全体の談話の構造は「手順の説明」-「手順の最後の行動説明」となる¹⁷。以下のようにまとめられる。

¹⁷ (11) のような例は「事態・事情説明-結論」と同種と分類する等することで、敢えて一つの構造として取り立てる必要もないようだが、前述の因果関係を示す構造とは異なるものであることは確かである。現段階では存在するすべての形をできるだけ多く類型化したいと考えた上で、取り入れた。

(11) の談話の構造

手順説明 (1143-1150)

手書きの用紙を見つける。それをコピーする。

最後の行動 (1151)

(おそらくホッチキスで) パチッと止める。 (ちやう)

5.4. 例外

談話の特徴に注目してまとめていくと、5. 1. ~ 5. 3. のような大きな談話の構造として考察することのできない発話のまとまりがある。5. 4. 1. 以下で確認する。

5.4.1. 事態や状況説明が省略される場合

上述の(5)~(11)の例では、「原因・理由—結果・結論」や、そこに至る状況や経緯を説明する発話のやり取りが明示されている。しかしながら、ここでは、その部分が存在しない(12)のような場合がある。

(12) [背景：F032 さん宅で年老いた母親のことを話している最中である。60代の友人間の会話である。]

F098: まー、でもお母さんは普段は、あなたいな、いないときはどうしてらっしゃるの？

F032: すいません、おつゆが流れちゃった。

F098: わーどうも。

F138: わーすごい。

F032: ふた取って、

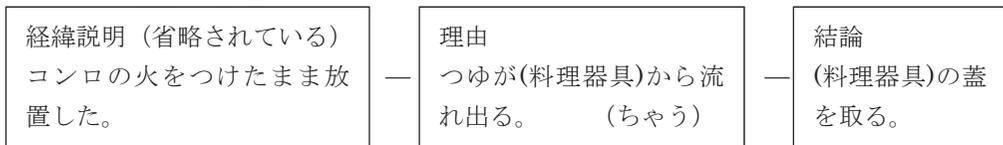
F138: わー、大きい。

F032: これらのふたが何だか***。(わー)

『名大：data008』

母親について話をしている最中に、何の前触れもなく、第2発話でF032は、「すいません…」と発する。例(11)までの談話と異なり、発話内容の背景にある事態が確認できるような発話のやり取りが存在しない。5. 1. ~ 5. 3. までの談話では、そこには構造として「因果関係」等が存在し、またそこに至るまでの経緯の説明も発話のやり取りの中で明らかにされる場合もあった。それが存在しないのは、上記(12)の談話における会話の参加者たちは、F032の「すいません」という言葉で、コンロの火をつけたままおつゆを放置したという事態が存在し、それによりつゆが流れたのであるあるということを一瞬のうちに把握できるからである。具体的な会話のやり取りをせずとも一目瞭然であるので、敢えてやり取りをする必要はなく、その部分は省略されると考えてよかろう。経緯説明の省略された部分を補えば、以下のような構造になる。

(12) の談話の構造



5.4.2. 質問—応答の隣接ペア

もう一つの例外に質問・応答という隣接ペアがある。

(13) [背景：学会で「です」と「だ」について発表するという話の最中に F098 (女 60 代前半) が質問をする。F032 女 60 代後半である。]

F098 : 発表は 20 分なの？

じゃ大丈夫よ。…… (中略) ですし、特殊だなんて言わなくても…
: (中略)

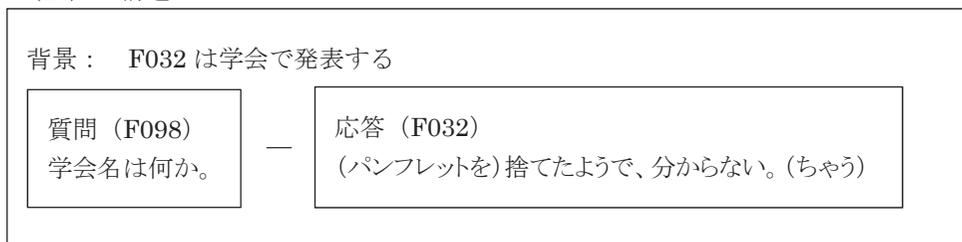
F098 : は一ん、お、行こうか。

何それ、何学会っていうの？ [質問]

F032 : 捨てちゃったかしら。 [応答] 『名大 : data008』

上記の「F032 : 捨てちゃったかしら。」と関連する内容の発話は F098 の[質問]部分の発話だけで、2 発話よりなる談話であると考えられる。F098 と F032 は質問と応答の二発話からなる隣接ペアである。しかしながら、この談話は、学会発表の内容について 2 者が話している最中に挿入された談話である。この点も考慮に入れると、上記のような 2 つの発話で完結しているような談話であっても、「～てしまう」は、F098 が学会発表するという文脈を背景として成り立つ隣接ペアであると言え、経緯説明が含まれていると考えられる。このような状況を踏まえて、談話構造を図示すると、以下 (13) のようになる。

(13) の構造



以上、「～てしまう」を含む談話構造を割出し、本節においては、その具体例を考察してきた。次にその分布傾向を探るために『名大』から抽出した用例を観察しながら、類型ごとに分類し、それぞれの総数をカウントする。

5.5. 『名大』より採取した用例の分類

本項では、『名大』から抽出した用例のみであるが、用例を再確認しながら、談話の類型ごとの総数を実際にカウントした。(表3)がその結果である。

(表3) 『名大』における「～てしまう」を含む談話の類型別出現数

データ \ 類型	因果関係			説明・結論	例外		合計
	原因・理由	譲歩	条件		隣接ペア	省略	
8(82分 ¹⁸)	17	8	1	4	1	2	33
34(32分)	18	4	1	1	0	4	28
38(31分)	3	4	0	1	0	1	9
67(34分)	7	4	1	0	1	0	13
68(34分)	13	6	1	0	0	0	20
69(30分)	5	2	0	1	0	0	8
合計	63	28	4	7	2	7	111

(表3)より、類型化した談話構造の中では、「原因・理由—結果・結論」の関係で発話の連なりが見られる談話が最も多く、それに「譲歩—結果」の関係が続くことが確認できる。それ以外は、あまり存在せず、「順序説明—結論」の関係は全く抽出できなかった。実際に、「～てしまう」を含む談話を概観し、類型化する作業の中で、「原因・理由—結果・結論」の関係で発話が結びついている談話が多いと感じられた。その他のコーパスからの用例に関する数値も出さなければ断定できないが「原因・理由—結果・結論」という文脈の中で「～てしまう」が多く用いられるという可能性が高いと思われる。

「省略」については、7例あった。その談話を観察すると、「こっちに置きちゃって」「ちょっと上のをどかしちゃって」というような発話が前触れなく出てくるが、その場の状況から、何のためにその発話があるのかが明らかであったり、「…例の…かなり、ついちゃった？」のように話者、聞き手とも既に認知している状況であり、経緯説明の必要がない状況の中で用いられる発話であった。このような場合、敢えて言う必要がなく省略される可能性が高いと考える。

6. 終わりに

本稿では、まず、会話コーパスの中の「～てしまう」が現れる談話を以下のように類型化し、整理した。

- ① 発話のやり取りを通して、ある出来事についての以下のような因果関係を説明するもの。

「原因・理由」と「結果・結論」／「条件」と「結果」／「譲歩」と「結果」

- ② 発話のやり取りによって事態や事情を説明し、最後に結論を出す(まとめる)もの。

¹⁸ () 外はデータ番号、() 内は全収録時間である。

- ③ やり取りの中で対処法等の行動を順次説明し、最後に取りべき行動(まとめ・閉め)を「～てしまう」を用い、述べる形をとるもの。
- ④ 上記①～③のような大きなまとまりが見出せないもの。

類型化した後、上記①～④の具体例を挙げ、詳しく観察した。最後に『名大』からの用例を一つずつ再確認しながら、類型ごとの数値を出していった。このように段階を踏んで用例を考察した結果、以下のような点が明らかになってきた。

- (a) 「因果関係」を表す談話には、「原因・理由—結果・結論」の関係で発話が連なっている場合が多いのではないか。
- (b) 上記①～④の構造を持つ談話に、経緯や状況を説明する発話のやり取りも加わる場合がある。
- (c) ある事態に至る「経緯」等が状況で即座に把握されるような場合は、敢えて言及する必要はなく、発話の中でのそのやり取りは省略されるのではないか。
- (d) 「～てしまう」の談話の中での位置は、「因・果」であれば、「因」を表す発話にも「果」を表す発話にも存在し、特に規定できない。

本研究はパイロットスタディであり、用例の考察が十分とは言えず、上記に挙げた項目は仮説の闕から出ていない。今後の課題は、さらに考察を進めることと、上記①～④および(a)～(d)のような「～てしまう」の特徴が、「～てしまう」の意味機能とどのように関わっているかを見極めていくことである。

参考文献

- 金高浩子(2009)「補助動詞「しまう」の意味と語用—日本語教育への一示唆」『昭和女子大学大学院言語教育・コミュニケーション研究』第4集、33-50
- 金田一春彦(1955)「日本語動詞のテンスとアスペクト」『日本語動詞のアスペクト』(1976) 金田一春彦(編)に所収 27-62、むぎ書房
- 倉持保男(2000)「補助動詞『(~テ)シマウ』について」『日本語 意味と文法の風景 国広哲也教授古希記念論文集』289-300、ひつじ書房
- 鈴木智美(1998)「『～てしまう』の意味」『日本語教育』97、pp.48-59 日本語教育学会
- 中野はるみ(2003)「終結相『してしまう』の意味」『日本文学論集』27、72-82、大東文化大学大学院 日本文学専攻院生会
- 中山富子(2011)「『～てしまう』の語用論的機能 ポライトネス理論からの考察」『言語文化教育』第6号 pp.31-34、言語文化教育学会
- _____ (2012)「『～てしまう』の語用論的機能についての一考察」『昭和女子大学大学院言語教育・コミュニケーション研究』第7集、65-80
- _____ (2013)「コーパスに基づく補助動詞『しまう』の考察 『感情・評価の意味』との関わり」『言語文化教育学会 第13回大会 予稿集』18,19、言語文化教育学会
- _____ (2014)「補助動詞『しまう』の意味 アスペクトからの一再考」『昭和女子大学

大学院言語教育・コミュニケーション研究』第9集、33-50

野田晴美（2013）「2.2 書き言葉における話し言葉的表現」『日本語の研究』9（4）、94,95

日本語学会

橋内武（1999）『ディスコース 談話の織りなす世界』くろしお出版

藤井由美（1992）『『てしまう』の意味』『ことばの科学5』 pp. 17-40 むぎ書房

前川喜久雄（2008）「話し言葉と書き言葉」『日本語学』27（5）、23 - 33、明治書院

前田直子（2009）『日本語の複文 条件文と原因・理由文の記述的研究』くろしお出版

丸谷しのぶ、和栗雅子、寺内弘子、菊池周子、法貴則子、梅岡巳香（1998）『『てしまう』

はどのような表現か その『心理側面』について』『東京外語大学 留学生日本語

教育センター論集』24,119-131、東京外国語大学

Renkema, Jan.1993. *Discourse Studies : An Discourse Studies in Textbook.*

Amsterdam: John Benjamins. 中村則之訳（1997）『伝わることば 談話コミュニケ

ーションの基礎知識』関西大学出版部

コーパス

現代日本語研究会（1999）『女性のことば（職場編）』ひつじ書房

現代日本語研究会（2002）『男性のことば（職場編）』ひつじ書房

名大会話コーパス <https://dbms.ninjal.ac.jp/nknet/login.html>

国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』中納言 1.1.0 版、短単位データ 1.0 版、

長単位データ 1.0 版、<http://chunagon.ninjal.ac.jp>